

2013（H25）年12月13日 12月議会一般質問

○私は、自由民主党福岡市議団を代表いたしまして、国際リニアコライダーの誘致について、室見川緑地の拡張整備について、旧三瀬街道、県道飯場金武線の整備について、脊振山系を生かしたハイキングのための環境整備について、地元産木材の公共施設への利用促進についての5項目について質問いたします。

まず、国際リニアコライダーの誘致についてお尋ねいたします。

国際リニアコライダー、ILCは、宇宙の成り立ちの謎に迫る超大型の実験施設であり、21世紀の世界3大プロジェクトの一つと言われています。

昨年7月、質量の起源と言われるヒッグス粒子が発見され、そのヒッグス粒子の存在を予想したピーター・ヒッグス博士が、ことしのノーベル物理学賞を受賞されたことで、ILC計画が改めて注目を集めています。

このILCの建設候補地として、現在、世界で5カ所が挙がっていますが、そのうちの2カ所が日本国内にあり、九州の脊振山系と東北の北上山系です。ILCの立地が実現すれば、世界中から研究者とその家族が集まる最先端の学術研究都市が形成されることになり、その

経済効果ははかり知れません。そのため、九州、東北の双方ともＩＬＣの誘致活動に力を入れており、九州では、九州経済連合会が中心となった産学官 12 団体によるＩＬＣアジア—九州推進会議が発足し、講演会などによる周知、啓発や、国に対しての要望などの活動をしてこられました。

しかしながら、この夏、素粒子物理学の研究者などで作るＩＬＣ立地評価会議が、国内候補地を北上山地に一本化するのが望ましいと発表したことで、もはや脊振山系にはＩＬＣは建設されないのではないかという見方が広がりました。

一方、国においては、先ごろ下村文部科学大臣が、ＩＬＣの建設候補地については北上山地だけでなく、脊振山系を含めて再検討する方針を示されました。

そこで、まず、ＩＬＣの誘致をめぐる最近の動きについてお尋ねします。

次に、室見川緑地の拡張整備についてお尋ねします。

室見川は、本市を代表する河川の一つですが、上流部は福岡市の水源となる曲渕ダム、そのさらに上流は野河内溪谷などの美しい溪流へとつながっています。この室見川沿いには、長さ数キロにわたって室見川緑地が整備されており、ウォーキングやジョギングなどの健康づ

くりの場として、また、清流で水遊びが楽しめ、緑の芝生でくつろぐこともできるレクリエーションや憩いの場として、早良区、西区住民のみならず、多くの市民から愛され、広く利用されています。

ことしで 13 回目を迎えた早良区有田校区の室見川灯明まつりでは、室見川緑地が約 2 万個の灯明で彩られ、その規模は博多灯明ウォッチングに次ぐものとなり、早良区の秋の風物詩として毎年 3 万人の人が訪れています。

また、早良区では、室見川水系の自然を守り、自然に親しむ環境づくりを推進するため、早良区のほとんどの校区、また自治会等、そして小学校、中学校の児童生徒及びボランティア団体など 4,000 人もの方々の参加による室見川水系一斉清掃活動を実施しておられます。ことしで 10 回目を迎えるこの活動は、11 月 24 日に実施されましたが、高島市長も清掃活動に参加され、挨拶の中で、これは単なる地域活動ではなく、アジアのリーダー都市の市民として誇りあるチャレンジであると称賛されました。

このように、室見川緑地は単なる運動公園だけではなく、憩いと安らぎの場、地域コミュニティの拠点であり、四季の移ろいを感じることができる、市民にとってなくてはならない貴重な空間であると感じています。

その室見川緑地は、県が管理する河川区域の中に整備されていると思われませんが、どのような仕組みで市の公園が整備されているのでしょうか、また、現在の室見川緑地の整備範囲はどのようになっているのか、お尋ねいたします。

次に、旧三瀬街道、県道飯場金武線の整備についてお尋ねします。

早良区は、南北に長く、本市7区で最も広い面積を有し、隣接する自治体や行政区も多いことから、早良区内を走る道路はそれらをつなぐ重要な役割を果たしています。中でも国道263号は、福岡市と佐賀市を最短ルートで結ぶ主要な幹線道路としてその役目を果たしており、内野地区から曲渕地区を結ぶ約3キロ区間については、糸島市から那珂川町につながる県道福岡早良大野城線と共用しています。しかしながら、この区間は、迂回できるバイパス的な道路もなく一本道であることから、休日や行楽シーズンともなると渋滞が発生し、沿線住民は買い物に行くにも自宅から出られないなど、市民生活への影響が生じているのが現状でございます。

渋滞に関してはこれだけではありません。私事になりますが、以前、帰宅途中に自宅近くの国道263号線で交通事故が発生し、一時通行止めとなり、自宅のある曲渕地区へ帰宅するために日向峠を經由し、糸島市側から大幅に迂回する形で、数分で自宅に帰るところを50分か

けて家にたどり着いたこともありました。そのときに、国道 263 号線の代替路ともなるバイパスが絶対に必要だと痛感した次第です。

伊能忠敬により地図に記されて 200 年を迎える旧三瀬街道は、古代から佐賀方面と行き来をしてきた重要な古い道路ですが、この旧三瀬街道であります県道飯場金武線を整備することで、災害などの不測の事態が発生した際に、佐賀方面や曲渕、金武両地区へのバイパス的道路として活用でき、国道 263 号の交通負担も軽減できると考えます。

また、福岡市、佐賀市、糸島市と人や物のさらなる物流促進が図られれば、両地区で生産される地域特産品の販売促進が期待され、かなたけの里公園や国史跡である吉武高木遺跡など、金武地区の新たな観光施設及び地下鉄橋本駅や周辺の商業施設への利便性向上と集客増加が見込めるなど、曲渕、金武両地区の振興や活性化につながる起爆剤になると考えています。

そこで、早良区曲渕地区と西区金武地区とを結ぶ旧三瀬街道である県道飯場金武線の現状について、お尋ねいたします。

次に、脊振山系を生かしたハイキングのための環境整備についてお尋ねします。

イギリスの情報誌「モノクル」の世界で最も住みやすい 25 都市ランキングに、福岡市が昨年に続き 12 位にランクインしたと某社の新聞

に掲載されました。住みやすさの評価として、コンパクトな都市機能と身近な自然が挙げられています。平成 25 年度の市政に関する意識調査でも、本市の住みやすい理由として、8割近くの方が自然環境の豊かさを挙げています。

私が住んでいます早良区南部には、自然豊かな脊振山系が広がっています。脊振山系には、気軽に登山やハイキングができる脊振山、金山、鬼が鼻などが連なり、また、他の政令市では見られない渓谷や滝が各所にあります。100年近くたった石積みの曲渕ダムは、自然に溶け込んで紅葉の名所として、ことしの秋も多くの市民でにぎわいました。曲渕ダムを起点としたウォーキング大会が、この秋に区役所、水道局、早良みなみ塾それぞれの主催で3回行われ、全市から多くの参加がありました。その参加者から、身近なところにこんなに豊かな自然があることに初めて気がつき感動しましたとの声が聞かれました。こういった声を耳にしながら、もっと多くの市民の方々にこの脊振の自然に親しんでほしいと思いました。

今回のウォーキング大会には、それぞれ各所に仮設トイレが設置され、出発点までは送迎バスが準備されました。人が集まるところには駐車場とトイレが必要ということです。

脊振山系の自然を守り多くの方々に親しんでもらいたいと、ハイキ

ングコースの清掃や標識の設置などのボランティア活動を行っている脊振の自然を愛する会は、初めての試みで来年春に登山口3カ所に集合して山開きの計画をしておられるそうです。多くの市民に声をかけたいとのことですが、最も心配しておられるのがトイレと駐車場です。

そこでまず、脊振山系におけるハイキングコース等での現在の設置状況をお尋ねいたします。

次に、地元産木材の公共施設への利用促進についてお尋ねします。

我が国は、国土の約7割を森林が占める、緑豊かな先進国有数の森林国であります。その森林の約4割が人工林で、その資源は本格的利用が可能な段階を迎えながら、林業産出額や林業所得の減少、森林所有者の経営意欲の低迷、国産材の流通構造改革のおくれなどにより、利用が進まない状況に置かれています。

市域面積の約3分の1を占めております福岡市の森林の現状については、さらに状況は厳しく、林業経営はおろか、民有林約8,900ヘクタールのうち、約2,000ヘクタールが荒廃し、森林環境税による対策がとられている状況であります。

このような厳しい状況を克服するため、公共建築物等における木材の利用を促進し、森林の適正な整備及び木材の自給率の向上に寄与することを目的とした公共建築物等における木材の利用の促進に関する

法律が平成 22 年 10 月 1 日に施行されました。

福岡市においても、この法律に基づいて、平成 25 年 10 月 1 日に福岡市内公共建築物等における木材の利用の促進に関する方針が策定されておりますが、まず、その内容と、公共施設の整備等における木材利用の実態についてお伺いします。

以上で 1 間目を終わり、2 間目からは自席にて質問させていただきます。

○経済観光文化局長 国際リニアコライダーについての御質問にお答えいたします。

国際リニアコライダーの実現に関する最近の動きにつきましては、素粒子物理学の研究者などで構成される I L C 立地評価会議が、8 月に I L C の国内候補地として北上山地を最適と評価するとの評価結果を公表いたしました。

一方、文部科学省からの審議依頼を受けた日本学術会議において、9 月末に I L C 計画の実施の可否判断に向けた諸課題の検討が不十分であるとの理由で、誘致は時期尚早との回答がなされたところであります。この間、立地評価会議による評価結果を受けて、I L C アジア—九州推進会議として評価基準や根拠が不明確で納得できないとの声

明を9月に発表したところでございます。

また、一方の日本学術会議の回答を受けて、11月にはILCアジア—九州推進会議として、ILC計画の実現に向け、幅広い観点から総合的な調査、検討を行っていただくよう政府や関係省庁などに対し要望活動を行ったところでございます。以上でございます。

○住宅都市局長 室見川緑地に関しまして、県が管理する河川区域の中に市の公園を整備する仕組みにつきましてお答えいたします。

県が行う河川改修事業は、川幅を広げたり川底を深くするなど、必要な河川断面を確保し、大雨による浸水被害を防止する目的で行われるものでございますが、その際に公園とするにふさわしい安全で適正な規模の河川敷などが生み出される場合がございます。そのような場合に、当該箇所を公園として占用することについて、県と協議した上で、福岡市が園路やベンチ、植栽等の整備や管理を行っております。

次に、現在の室見川緑地の整備範囲につきましては、上流は金武中学校付近の松風橋、下流は室見川筑肥橋までを都市公園として都市計画決定し、整備を行っております。以上でございます。

○道路下水道局長 旧三瀬街道、県道飯場金武線の現状についてお答

えいたします。

当該路線は、早良区飯場から曲渕を經由し西区金武までの総延長約4.6キロの一般県道でございます。現状は、沿道に住宅が隣接している室見が丘周辺を含む約2.7キロ区間につきましては、既に舗装などの整備がなされており、改良済み区間となっております。残る飯場側へ約1.9キロ区間は、起伏が激しく転石や沢なども点在し、幅員が最も狭いところで1メートル程度しかない未舗装の道路であることから、車両の通り抜けができない状況となっております。道路整備を行った場合には、多大な事業費や相当の期間を要するものと考えております。

なお、未舗装の区間につきましては、地域の方々がトレッキングコースなどとして利用されていることもあると聞いております。以上でございます。

○市民局長 脊振山系におけるハイキングコースにつきましては、主なルートとして野河内溪谷、花乱の滝、坊主ヶ滝、小爪峠、椎原峠及び車谷の6つございます。

トイレは、野河内溪谷ルートと坊主ヶ滝ルートに市民局が設置しているほか、小爪峠ルートには登り口に位置する公園に住宅都市局が設置いたしております。また、椎原ルートと車谷ルートには、共通の登

り口となるバス停に地元が、ルート途中の板屋地区に環境局が設置したものがございます。

なお、6つのルートともに、駐車場は特に整備いたしておりません。

以上でございます。

○農林水産局長 福岡市内の公共建築物等における木材の利用の促進に関する方針の内容でございますが、第1に、木材利用の促進の意義としまして、木材の利用を促進することは森林の多面的機能の持続的発揮に貢献すると定めております。第2に、木材の利用の促進のための施策として、公共建築物の木造化や木質化の促進、公共土木工事における木材の利用促進、備品等における木製品の利用促進、木質バイオマスの利用促進等を定めております。第3に、木材の確保に関する基本的事項として、木材の安定供給に関する事項と木材供給の支援に関する事項を定めております。第4に、促進に関し必要な事項として、木材の利用状況や流通に関する調査等を行い、木材の利用の促進に向けた情報の収集、提供などを行うことを定めております。

次に、公共施設の整備等における木材利用の実態につきましては、福岡市公有財産台帳によりますと、市有建築物の総延べ床面積に対する木造建築物の割合は0.4%程度であり、公園の管理棟、休憩施設、老

人いこいの家などに使われております。また、学校などでは床や腰壁などの内装の一部が木質化されておりますが、土木工事の資材や椅子、テーブルなどの備品、間伐材を利用した用紙などの消耗品につきましては、価格や耐久性等の課題があり、利用が進んでいない状況であります。以上でございます。

○まず、国際リニアコライダーの誘致について、お尋ねします。

私は、本年6月議会におきまして、アジアの拠点都市として外国人にも住みやすいまちづくりを進める福岡市は、ILCの立地に強みがあると思われるし、ILCの脊振山系への誘致が実現すれば、福岡市が進める国際化に弾みがつくのではないかとこの質問をいたしました。

しかしながら、ILC立地評価会議が8月に発表した評価結果によりますと、工事のしやすさなどについての技術評価には差があったものの、大差がつくと思っていた生活上の利便性など、社会環境基盤評価には余り差がなかったと聞いております。

福岡市は、世界でも住みやすい都市との評価がされていますし、国際的な会議やイベントの開催実績も多い都市ですから、外国の方々にとっても暮らしやすい都市であるとの自信を持っておられると思えます。

そこで、この評価結果について、市長のお考えをお聞かせください。

また、I L Cアジア—九州推進会議においては、I L C計画の九州での実現を目指す考えが引き続きあるようですが、本市ではいかがでしょうか。I L C誘致に向けた今後の市の取り組みや方向性について、市長の御所見をお尋ねいたします。

次に、室見川緑地の拡張整備についてお尋ねします。

県の河川改修事業によって生まれる河川敷において、公園とするにふさわしい安全で適正な規模がある空間が生み出された場合に公園化しているとのことですが、本市の厳しい財政状況や市街化の進展により、新たな公園を整備するための用地の確保は困難な状況にあります。したがって、河川改修工事によって新たに生み出される河川敷は、福岡市にとっても、用地の取得をせずに公園の整備ができる貴重な空間であると思います。

西区の金武や吉武地区には、これまで室見が丘の住宅開発やかなたけの里公園の整備、市街化調整区域の集落地区計画の決定など、地域の活性化や自然環境と調和した良好な居住環境の形成に向けて、福岡市としても積極的に取り組んでこられました。そのおかげで、以前に比べ、松風橋のさらに上流部分についても、周辺住民はかなりふえてきたのではないかと思います。

こうした住民からも、室見川緑地をさらに上流にも拡張してほしいとの期待があることと思いますし、現に早良区四箇田校区や入部校区からは、早良区長宛てに、松風橋から丸隈橋までの区間約1キロを延長するよう要望書も提出されていると聞いております。

そこで、現在の室見川緑地を上流側に延伸することは可能でしょうか、お尋ねします。

次に、旧三瀬街道、県道飯場金武線の整備についてお尋ねします。

県道飯場金武線の現状は、未舗装の区間において、道路幅が狭く車両の通行ができず、しかも急勾配なので、整備が大規模となり、相当な時間や莫大な事業費を要することは私にも容易に想像できます。

しかし、現状で国道263号は渋滞が起こっており、県道飯場金武線の整備に時間がかかるのであれば、それまでの間、現道や周辺道路を活用した整備を行い、道路ネットワークの形成を図ることで国道263号の渋滞緩和につながるものと思われれます。

そこで、国道263号の渋滞緩和を目的とした周辺道路の整備状況についてお尋ねします。

次に、脊振山系を生かしたハイキングのための環境整備についてお尋ねします。

駐車場は特に整備していないとのことですが、現地では路上駐車

ために定期バスの通行に支障が生じております。

また、トイレについては、ある程度設置されているようですが、地域自治会が設置したものなども含まれていますし、また、くみ取り式で老朽化するなど、質的にも満足できるものではありません。民家や商店にトイレを借りに来られたり、また、とんでもない所で用を済まされるなど、地域を悩ます問題となっておりますので、市には、さらに積極的に取り組んでいただきたいと考えております。

私は、平成 23 年の第 3 回定例会においてもこの問題を取り上げ、その際に当時の市民局長から、脊振山系のハイキングコースの施設整備については、今後、事業主体や手法なども含めて検討を進めていくとの答弁をいただいております。

そこで、その後の検討状況はどのようになっているのか、お尋ねします。

次に、地元産木材の公共施設への利用促進についてお尋ねします。

ただいまの答弁によりますと、本市の公共施設の木造率は、全国の木造率の 7.5% に比べ大変低いものであり、木材の利用が進んでいないのが実情であります。このことは、木造建築に対する防火のための高さや延べ面積の建築制限、大都市ゆえの厳しい法的規制等の問題に加え、日本全体がこれまでコンクリートを指向してきた背景があること

を考慮しても、非常に低いと言うしかありません。

先日、障がい者施設の方と老人施設経営者との間で、施設の木造建築とコンクリートづくりの違いの話になりました。木造の建物では、入所者はもちろん職員の方も生き生きとして、トラブルが少なく、逆にコンクリートの建物は、お互いぎすぎすした感じで雰囲気は余りよくない。コンクリートづくりはストレスがたまりやすいようだ、お互いに木造の建築の良さを認識しておられました。この話をお伺いしながら、公共施設にもっと木材を利用していただければと感じました。

他の大都市に先駆け、福岡市内公共建築物等における木材利用の促進に関する方針を策定されておられますことは、とても評価できます。

そこでお伺いしますが、公共建築物への木材利用について、今後どのように促進し、実効性を確保されていかれるのでしょうか、お答えください。

以上で2問目の質問を終わらせていただきます。

○住宅都市局長 室見川緑地の上流側への延伸の可能性につきましてお答えいたします。

室見川の松風橋の上流地域において、県の河川改修事業が行われ、公園とするにふさわしい安全で適正な規模の河川敷を生み出される場

合には、その公園化について県と協議しながら拡張の検討を行うことは可能であると考えております。以上でございます。

○道路下水道局長 旧三瀬街道、県道飯場金武線についてお答えいたします。

国道 263 号の渋滞緩和を目的とした周辺道路の整備につきましては、国道 263 号のバイパス的な役割を担う路線として国道の西側を南北に走る都市計画道路有田重留線や一般県道内野次郎丸弥生線及び国道と那珂川町方面を結ぶ主要地方道福岡早良大野城線の整備を実施しております。

また、以前、渋滞ポイントとなっていました滝見橋交差点におきましては、交通管理者により信号機のサイクルを調整するなど、渋滞解消に向けた対策が講じられております。引き続き周辺道路の整備を進めることで、ネットワークの充実に取り組んでまいります。以上でございます。

○市民局長 ハイキングコースの環境整備に関するその後の検討状況につきましては、現在、早良区において野河内溪谷来訪者用の駐車場設置に向けた検討を行っております。以上でございます。

○農林水産局長 公共建築物への木材利用について、今後どのように促進し、実効性を確保していくのかとのお尋ねでございますが、まずは本市の公共建築物等における木材需給の実態を把握するため、需要量調査や使用実績調査、地元産木材の木材流通調査等を実施してまいります。

また、木造建築に関する建築基準法等の法令見直しや技術革新等の動向を捉えるとともに、先進的な事例を把握し、関係局への木材利用に関する情報発信を積極的に努めてまいります。

さらに、この方針で定めました促進すべき項目の実施状況を把握しながら、その実効性の確保に努めてまいります。以上でございます。

○市長 国際リニアコライダー、ILCについてでございますが、我が国におけるILCの計画の実現については、地質などの自然条件だけではなくて、実際に現地で研究を行う世界中の科学者とか技術者に対して、安全、安心で快適に研究ができる環境を提供することが重要であるというふうに認識をしております。

福岡市は国際ゲートウェイ都市として、福岡空港ですとか博多港を有しておりますし、新幹線や高速道路網の充実など、交通アクセスの

よさは世界有数でございます。また、多数の大学や研究機関の集積に加えて、スポーツ観戦や観劇など文化面や、食や自然の豊かさ、そして、外国語対応の医療機関やインターナショナルスクールなど、外国人居住者にとっても住みやすい都市でございます。大原議員御指摘のとおり、イギリスの雑誌「モノクル」でも世界の住みやすい都市 12 位という形で、非常に海外でも高い評価を受けております。そうした福岡市が、社会環境基盤評価においても、これは断然高く評価されるべきであったというふうに私も考えております。

脊振地域への I L C の誘致が実現いたしますと、福岡市が有する都市資源を最大限に活用いただきますことによって、世界の研究者や技術者に対して快適な研究や生活の環境を提供できますし、より一層有意義な研究成果が生み出されてくるものと確信をしております。

また、世界最先端の国際学術研究都市が形成されることになりまし、研究成果がもたらす学術的、経済的な直接効果のみならず、高度専門知識を有する人材との交流がもたらす文化的波及効果など、その恩恵ははかり知れません。

福岡市といたしましては、これまで I L C 計画の脊振地域での実現に向けてプロジェクトチームを結成して、市民の皆様への広報などに努めてまいりましたが、今後も引き続き I L C アジア—九州推進会議

の一員として情報収集に努めますとともに、日本学術会議の回答を受けて、政府としてさまざまな角度から総合的な検討が行われ、適切な判断が下されるものと期待をするものでございます。以上です。

○まず、国際リニアコライダーの誘致についてです。

ＩＬＣの脊振山系への誘致が実現すれば、日本が主導する国際科学イノベーション拠点が福岡市の近郊に形成されることになり、そこから世界に貢献する新しい技術の創出や、九州、ひいては国内への大きな経済波及効果などが期待されます。

ＩＬＣ誘致については、最終的には政府が決定することであり、地方自治体がかかわる問題ではないとの意見もあると思いますが、脊振山系の優位性は、国際都市を目指す福岡市を控えていることによることは誰もが認めるところです。今後とも、積極的に政府に働きかけていくべきだと思っています。

まだ結論が出たわけではありません。九州が一丸となって引き続きＩＬＣの誘致活動を行っていくように強く要望いたしまして、この質問を終わらせていただきます。

次に、室見川緑地の拡張整備についてです。

ただいまの答弁から、県の河川改修事業が進めば拡張の可能性はあ

ると感じました。確かに河川改修工事は大雨のときでも周辺住民に被害を出すことのない安全な河川にすることが主目的であり、必ずしも公園に適した土地が生まれるかどうかわかりませんし、難しい点も多いかと思います。しかしながら、室見川緑地がさらに上流まで整備され、多くの市民のレクリエーションと健康づくりの場がふえることは、周辺住民のみならず、市民の願いだと思っています。そのためにも県の河川改修工事の機会を逃さず、公園整備に向けた検討をする必要があると思います。

将来、室見川の上流に河川改修工事が行われる場合には、私も公園にできるような計画づくりを県に働きかけていきたいと思いますが、市としても、室見川緑地の上流側への拡張について、前向きに検討していただきますよう要望いたしまして、この質問を終わります。

次に、旧三瀬街道、県道飯場金武線の整備についてです。

国道 263 号の渋滞緩和に向けた道路ネットワークの形成は喫緊の課題であり、一日でも早い整備完了をお願いするものであります。

一方、内野地区から曲淵地区までの国道 263 号で災害や事故などの不測の事態が起こった際に、避難や迂回もできず立ち往生してしまうおそれがあります。

将来的には地元住民の悲願である県道飯場金武線を整備することで、

国道 263 号で災害など不測の事態が起こった際もバイパス的な道路としての役目を果たし、また、西区金武地区におきましても、交通の利便性だけではなく農産物販売の促進や林業の振興などに寄与するものと大きな期待が持たれていることから、ぜひ、整備に向けた前向きな検討を強く要望いたしまして、この質問を終わらせていただきます。

次に、脊振山系を生かしたハイキングのための環境整備についてお尋ねします。

今年度策定されました福岡市総合計画には、目指す都市像として自然と共生する持続可能で生活の質の高い都市が掲げられております。都市空間構想では、脊振山系を含む早良区南部を山や森林などの自然を活用し、市民が身近に自然と触れ合い楽しめる空間と位置づけています。また、早良区のまちづくり目標では、脊振山系や野河内溪谷などの豊かな自然を守り生かしていくことにより、人々が集うまちづくりを進めるとされています。

身近に豊かな自然があることは福岡市の特色であります。中でも脊振山系はまとまった自然が残されており、さまざまな景勝地とそれをめぐる登山道や自然道があり、市民の方が身近に自然と触れ合える憩いの場として、ハイキングや散策を行うには絶好の環境です。ハイキング等により都心部との交流が進み、市民の皆さんが脊振山系の魅力

に気づき、感じてもらうとともに、健康づくりにつながるものと考えます。しかしながら、現在は駐車場やトイレなどの受け入れ環境が整っておらず、その恵みが生かされていないばかりか、地域住民とのトラブルも心配され、快く多くの市民の方々においでくださいとは言えない状況です。

先ほどの答弁で、野河内溪谷ルートにおける駐車場については具体的な検討が行われているとのことですが、そのほかのルートについても駐車場対策が必要です。また、トイレについても設置場所の増設、水洗化、案内表示などを充実するなど、環境整備が必要だと考えますが、御所見をお伺いして、この質問を終わります。

次に、地元産木材の公共施設への利用促進についてお尋ねします。

福岡市議会議員も多数参加して、先月行われました山に木を植え豊かな漁場を守るための森と海の再生交流事業には、漁業協同組合の方々を初め、多くの市民やボランティアの参加がありました。

また、市内のマンションにおける木材を使ったリフォームが好評を得ていることや、JR九州の新幹線には九州産の木材を使用し、観光列車ななつ星の客室には国産木材を用い豪華さを際立たせるなど、木材に対する関心が高まりを見せているところでもあります。

このように森や木材への市民の注目が集まる中、森林や林業が持つ

多面的機能を発揮するには、地方公共団体の責務として、整備する公共建築物における木材の利用に努めていく必要があると思います。

そこで、地元産木材による象徴的な公共施設の建設や木造化の先導的な取り組み、化石燃料の代替エネルギーとして木質バイオマスの利用促進など、他の大都市に先駆けて積極的に取り組み、森林の大切さや木のよさをもっと市民へ情報発信していくべきだと思います。水と緑の物語のメインキャスターを4年間にわたり務められ、森林の大切さに深い造詣をお持ちの市長の木材利用促進に取り組む強い意気込みをお尋ねいたしまして、質問を終わらせていただきます。

○市民局長 ハイキングのための環境整備についてでございますが、脊振山系の自然は福岡市にとって貴重な財産であり、市のスポーツ・レクリエーション振興にも活用してまいりたいと考えております。

議員御指摘のハイキングコースの施設整備につきましても、引き続き関係局と連携し、具体的な検討を進めてまいります。以上でございます。

○市長 森林は市域のおよそ3分の1を占めておりまして、それが、福岡市が大都市でありながら緑豊かで住みやすい都市であると評価さ

れている一因だと考えております。

また、森林は、環境保全、水源の涵養等の多面的な機能を有して、市民生活に果たす役割はとても重要でございます。

これから多面的機能を確保していくためには、森林の適正な維持管理と木材の利用による持続可能な森林経営を図ることが重要だというふうに考えております。使わないのではなくて、しっかり木を使っていくということが、木を育てて、そして林業を守って、そして、それがまたさらには海を育てることだというふうに私も当時番組では伝えていた次第でございます。

そのためにも、今後、再生可能エネルギーである木質バイオマス利用促進の調査、検討ですとか、森林の保全と林業の振興を図って、今回策定した方針に基づいて地元産木材の利用促進に努めていきたいと考えます。以上です。